

中部地方整備局事業評価監視委員会（平成23年度第2回）

議 事 概 要

1. 日 時 平成23年8月26日（金）13：30～16：30
2. 場 所 KKRホテル名古屋 3階芙蓉の間
3. 出席者
 - 事業評価監視委員
林委員長、加藤副委員長、大野委員、杵田委員、竹内委員、
中村委員、藤田委員
 - 中部地方整備局
足立局長、高橋副局長、内海副局長、総務部長、企画部長、
河川部長、道路部長、港湾空港部長、営繕部長、用地部長、
水資源機構中部支社長 他
4. 議事
 - 1) 前回（平成23年度第1回）議事概要確認
 - 2) 対象事業の審議等
（再評価）
 - 近畿自動車道 紀勢線 尾鷲北～紀伊長島
 - 一般国道138号須走道路
 - 一般国道138号御殿場バイパス（西区間）
 - 一般国道302号名古屋環状2号線
 - 庄内川直轄河川改修事業
 - 庄内川特定構造物改築事業（JR新幹線庄内川橋梁）
 - 庄内川総合水系環境整備事業
 - 新丸山ダム建設事業
 - 設楽ダム建設事業
 - 木曾川水系連絡導水路事業

5. 配布資料

- ・委員会開催資料（議事次第、配付資料一覧、委員出席者名簿、配席図）
- ・資料1 平成23年度 第1回議事概要
- ・資料2 再評価に係る県知事等意見
- ・資料3 対応方針一覧表
- ・資料4 再評価に係る資料【道路事業】
- ・資料5 再評価に係る資料【河川事業】
- ・資料6 近畿自動車道 紀勢線 尾鷲北～紀伊長島 説明資料
- ・資料7 一般国道138号須走道路・御殿場バイパス（西区間） 説明資料
- ・資料8 一般国道138号須走道路 説明資料
- ・資料9 一般国道138号御殿場バイパス（西区間）説明資料
- ・資料10 一般国道302号名古屋環状2号線 説明資料
- ・資料11 庄内川直轄河川改修事業 説明資料
- ・資料12 庄内川特定構造物改築事業（JR新幹線庄内川橋梁） 説明資料
- ・資料13 庄内川総合水系環境整備事業 説明資料
- ・資料14 新丸山ダム建設事業 説明資料
- ・資料15 設楽ダム建設事業 説明資料
- ・資料16 木曾川水系連絡導水路事業 説明資料
- ・参考資料 中部地方整備局管内における「検証対象ダムの再評価」について

6. 主な審議結果等

1) 再評価対応方針（原案）については以下のとおりとする。

「道路事業」

近畿自動車道 紀勢線 尾鷲北～紀伊長島	・・・・・・・・・・	了承
一般国道138号須走道路	・・・・・・・・・・	了承
一般国道138号御殿場バイパス（西区間）	・・・・・・・・・・	了承
一般国道302号名古屋環状2号線	・・・・・・・・・・	了承

「河川事業」

庄内川直轄河川改修事業	・・・・・・・・・・	了承
庄内川特定構造物改築事業（JR新幹線庄内川橋梁）	・・・・・・・・	了承
庄内川総合水系環境整備事業	・・・・・・・・・・	了承
新丸山ダム建設事業	・・・・・・・・・・	了承
設楽ダム建設事業	・・・・・・・・・・	了承
木曾川水系連絡導水路事業	・・・・・・・・・・	了承

2) 委員より出された意見・質問及びその回答

項 目	意見・質問	回答及び対応方針
近畿 自動車道 紀勢線 尾鷲北～ 紀伊長島	(4頁) 前回評価より便益が増えているが、将来交通需要推計手法の改善による交通量増加が主な原因か。	今年度から、ネットワークの考え方が現在事業化済みの区間だけが完成しているというネットワークに変更になった。前回評価時は高速道路がすべて完成していて紀伊半島の南側を回る交通が多いと予測していた。南側は未事業化の区間が多いため今回評価では名阪国道を經由して南へ下りてくる交通量が増えた。また、供用が2年後に迫っているなのでその関係でも便益が増える。
	便益は何年ぐらいの期間を計上しているのか。	供用後50年間の便益を算出して計上している。
	紀伊半島南側の高速道路が途切れていると想定して50年間の便益を算出した場合、将来南側の高速道路が完成するとこの事業の便益が変化するのはないか。南側の高速道路が完成する段階がいつか来るのであれば、その段階で便益が変化するとして算出しなければおかしいのでは	将来交通需要推計が過大ではないかと指摘され、昨年度全国的に見直しを行った。いつできるか分からない道路は除外し、事業化済み区間だけが完成しているネットワークを用いるという結論が示され、今回評価はそれに基づき便益を算出している。
	紀勢線は津波の影響を受けるのか。	(6頁右下グラフ) 赤い線が紀勢線の高さ、青い線が津波浸水高さであり、紀勢線は津波より高い位置にあるので津波の影響を受けない。黒い線の国道42号は津波の影響を受ける。
	津波浸水高は従来の想定高さか。今後見直される可能性はあるのか。	三重県作成の東海・東南海・南海地震による従来の想定高さを表示している。中央防災会議の議論により今後見直されると思われる。
	紀勢線の高さが10m程度の箇所があるが問題ないか。	紀北町の海山という市街地の辺りであり、海からの距離はあるが、中央防災会議の議論を受けて津波高が見直されればチェックを行う。
	(10頁) コスト削減のため少数主桁にしたと書いてあるが、津波に対する強度などの面では大丈夫か。	少数主桁でも十分な剛性はある。また、津波の影響を受ける箇所ではない。
<p>一般的意見)</p> <p>○現在の便益計算では大都市の渋滞対策の便益が非常に大きく出るため都市のプロジェクトが優先されがちだが、地方に住む人の命に係わる道路の少なくとも二重系までは、より優先的にやる必要があると思う。</p>		

項 目	意見・質問	回答及び対応方針
一般国道 138号 須走道路	(資料7、10頁) 観光地とは富士五湖のことか。	富士五湖や登山口など富士山方面と箱根方面がある。
一般国道 138号 御殿場 バイパス (西区間)	観光交通が現道を通り抜けるに使うため非常に混むので、バイパスを設置する意味があるということか。	そのとおりである。
	(資料7、6頁) 御殿場バイパスは用地着手から9年経過して未だ用地取得率が3%しか進捗していないが、完成の見込みはどうなっているのか。	御殿場バイパスは新東名と連結する道路になるので、新東名の整備を睨みながら整備したいと考えている。今年には全面的に用地調査等を行っており、来年から用地買収に入りたいと考えている。
	中央道や東名高速道路が使えなくなった場合の迂回路になるという説明があったが、東富士五湖道路の整備状況はどうなっているのか。	東富士五湖道路は既に供用中であるため、本道路ができればスムーズに行く。
<p>一般的意見)</p> <p>○地震等の大きなダメージがあった場合のリダンダンシー確保は重要であるが、現在の評価手法では定量的評価ができていない。定性的な説明をしていくことも必要と思う。</p>		

項 目	意見・質問	回答及び対応方針
一般国道 302号 名古屋 環状2号線	<p>(事業内容の説明に先立ち、残事業の費用対効果算出方法変更について説明が行われた。)</p>	<p>残事業のwithとwithoutの差があるところのみで便益と費用を計上するという原則に則った変更である。従来は、将来にわたって必要となる費用に着目し、既に供用している部分の維持管理費も費用として計上していた。今後は、算定箇所について便益との整合性を図るため、既に供用している部分の維持管理費は計上しない。この考え方に基づくと、今年度第1回の委員会で議論いただいた4事業は、それぞれ残事業の費用対効果が1.5、3.9、1.8、6.5から2.5、4.5、4.1、7.2になる。</p>
	<p>(2頁) 標準断面図で道路が橋桁の上に乗った構造のメリットは何か。このような構造が安いのか。</p>	<p>漫画的に書いてるため省略されているが、橋脚と橋桁の間に衝撃や桁の温度差による伸び縮みを吸収する沓というものもある。</p>
	<p>(1頁) 事業の目的に新たな市街地形成の支援と書いてあるが、道路整備により新たに市街地が広がることを支援するという意味か。市街地をダウンサイジングしてインフラを効率的に使おうという流れに反するのではないか。</p>	<p>環状2号は自治体が進めるまちづくりを支援するために、区画整理事業と一体となって整備している</p>
	<p>(7頁) 環状2号整備と市街化の関係について説明がないために、環状2号の周辺で市街化が進んでいるという説明にしかなくてない。市街化が進んだ地域にこのような道路を整備してよいのかという疑問を感じる。</p>	
	<p>(7頁) 沿道に市街地が張り付くことを善しとするイメージになっているが、環状2号は「直交する道路のアクセスをコントロールすることにより、コンパクトに市街地を開発していく」という概念に切り替えなくてはいけないと思う。</p>	<p>本事業は昭和46年に事業化し、市街地の形成を支援することを目的の一つとして整備してきた。(7頁は) これまでの変遷の中で、道路が市街地の骨格を作ってきたのではないかと表現をしている。しかし、人口減少や価値観の変化がある中で、</p>
	<p>勝川駅近くの市街地に環状2号が通っているが、環状2号沿道に住宅整備が進むと旧町並みを壊すのではないかとイメージを与えている。</p>	<p>ご指摘等を踏まえながら、町並みやアクセスのコントロールを調整しながら残事業を整備していきたいと思う。資料の表現については、将来の</p>

<p>ドイツでは大規模な交通施設を整備するときに、地域のアメニティを確保するための遮断緑地確保、アクセス制限、けもの道の復元といったミティゲーション（mitigation：緩和策）を必ず行う。日本でも地域のアメニティが確保されて機能するかどうかを評価しなければいけないと思う。</p>	<p>動向を加味した表現ができるかどうか、検討したい。（7頁の表現について、委員長に相談のうえ修正することとなった。）</p>
<p>大規模な道路を整備すると町並みが分断されるので、市街化地域の形成にはつながらないと思う。大規模な道路は市街化地域の周辺にあるべきであり、市街地の中に造るのであれば地下を通すべきだと思う。従来のように沿道に市街地が広がってガスや水道も延々と広がるという状態は少し考えた方がいいのではないかと思う。</p>	
<p>（7頁）これは30年ぐらい前の時代の効果の書き方であって、今となっては修正しておかないと後々まずいと思う。</p>	
<p>東京では市街化後に用地買収しているが、環状2号は区画整理を進めながら計画的に道路用地を生み出すという賢いやり方をしており評価できる。</p>	
<p>これまで計画的に地域開発を進めてきたので、次にどうしていくかという問題だと思う。</p>	
<p>資料の表現を修正していただければ良いと思う。</p>	

項 目	意見・質問	回答及び対応方針
庄内川 直轄河川 改修事業	庄内川の整備はいつから始まったのか。	昭和初期頃から愛知県による治水対策が進められていた。河川法が昭和40年に施行され、国の整備は昭和44年から始まっている。
庄内川 特定構造物 改築事業 (JR新 幹線庄内 川橋梁)	昭和44年以降庄内川の洪水に対する安全度は飛躍的に良くなったのか。	定量的な数字は無いが、河道掘削や堤防整備等により相当改善されていると認識している。
	(資料11、1～2頁) 過去50年間の洪水を基準に流量を想定しているが、過去50年以前のもの資料として使えないのか。	庄内川では観測史上最大の洪水による流量を想定している。川によっては江戸時代の浸水記録が残っているところもあるが、庄内川は比較的歴史も浅く、記録が残っているか分からない。
	東海豪雨では庄内川の洗堰から新川へ水が流れ込んで新川で破堤したと報道されていたが、庄内川と新川を併せて整備していないのか。	(資料11、5頁右側) 新川は愛知県の事業になるが、庄内川と新川で連携して対策を進めてきた。事業評価は水系単位で評価するため今回は新川の評価はしていない。
	(庄内川と新川は) 相互に関連しているが、流量はどのようになっているのか。	(資料11、5頁右側) 東海豪雨では新川洗堰から新川に270m ³ /s越流した。現在は新川洗堰の改築により新川へは70m ³ /s越流し、200m ³ /sは庄内川が受け持つ。
	(資料11、3頁) 費用対効果分析で総費用1,080億円と書いてあるが、事業着手は何年度か。	事業着手は平成18年である。
	河川整備計画は平成20年策定ということだが、整備計画策定前から事業に着手しているということか。	そのとおりである。
	事業着手からの執行額は残事業費との差額の280億円余りか。	これまでの執行額は約230億円である。
	(資料12、6頁) 特定構造物改築事業の県道枇杷島橋架け替え費用はどの程度か。総費用には河川側負担分だけを計上しているのか。	県道枇杷島橋の架け替え総事業費は140億円ぐらい。道路側と河川側が半々で負担する。総費用には河川側負担分のみ計上している。
	(資料11、9頁) コスト縮減について、建設発生土の処分費が不要になって5億円縮減できたということだが、砂利や土などは市場で売られているので、建設発生土を販売できないのか。	庄内川の河道掘削で発生する土砂は、大部分がシルト分(砂と粘土の中間の粒子の堆積物)であり、再利用しにくい。
一般的意見)		
○安全確保が難しい場所を市街化するにあたっては、洪水被害や洪水被害後の訴訟による社会的コスト等も考慮のうえ、都市計画と連動した開発が必要だと思う。		

○堤防整備や架橋など、川と人の戦いは1,000年以上前から繰り返していると思う。江戸時代の財政でも、治水工事の費用の記録が残っている。B/Cがこうだから必要性があるなどということより、人が住む以上は毎年（治水に）税金をかけなくてはならないという考え方を、もう少し一般の人たちが持っていただけだと感じる。

○どれ程費用をかけて安全確保をしているかという情報を一般の方に公開したうえで、堤防整備等によるミティゲーション（緩和策）ではなく、土地利用見直しなどアダプテーション（適応策）で対応するという段階に入ってきているのではないかと思う。

項 目	意見・質問	回答及び対応方針
庄内川総合水系環境整備事業	千曲川では河道掘削を通して本来の多様な自然環境を取り戻す工夫をしている。庄内川の改修事業は大規模なので、河川法に則った生きもの等に優しい工法を工夫して進めていただきたい。	自然への配慮は非常に重要だと考えている。河口部で進めている高潮堤整備はラムサール条約に登録されている藤前干潟の目の前であり、貝やカニなど貴重な生物がいる干潟を乱さないように、治水と自然環境が両立できるよう工夫しながらやってきた。今後も工夫して進めていきたいと考えている。
	(11頁) CVM手法を用いたB/Cで残事業B/Cも記載しているが、支払い意思額の調査でどのように残事業B/Cを算出しているのか。また、庄内川河口部水辺整備は、全体B/Cが8.2で残事業B/Cが95.5と大きく異なるが、何が原因か。	残事業B/Cは、便益は箇所別B/Cと同じ数字を使い、費用は残事業分のみで計算している。庄内川河口部水辺整備は、事業進捗率が95%であることから残事業B/Cが大きくなっている。
	環境教育の場として活用されているという写真が掲載されているが、地元の方が企画したものか。	多くの写真は地元NPOや個人など、川が好きな方々の活動である。
	環境教育の場として定期的に活用されているのは限られた場所なのか。	川に入って遊べる場所は限られてる。下流は河原が広いが、上流では多治見市や土岐市の市街地など限られた場所で川に入って遊んでいる。
	庄内川は環境教育の場として非常に重要かつ有効的な場所だと思う。管理者が積極的に関与してもよいのではないか。	小学校の総合学習の支援など、積極的に関与していきたいと思う。
	CVM手法のアンケートでは環境教育の場としての便益も調査しているのか。	環境教育の場としての便益など個別の調査はしていない。
	環境教育により環境意識が高くなることによって、ゴミの投棄が減少するような効果もあるのではないか。	(15頁下段写真) 庄内川では河口のクリーン大作戦を年間2回行っており、約1,500人の方々に参画していただいている。このような活動をどんどん広げていきたいと思う。
	(26頁) 魚道の整備で今後のフォローアップは必要ないということだが、堰の下に魚がたむろしていないか確認しているのか。また、(15頁) 河口部水辺整備のところによくの方が来られるのは良いが、津波などの際に階段で避難ができるのか。	高貝用水堰魚道整備については、整備後の平成19年に調査し、多くの遡上があることを確認している。また、(河口部水辺整備の) 川に入る方々の安全については、従来は簡単には堤防に上れない状況であったが、通路と階段も整備したので、警戒していれば避難できると考えている。

項 目	意見・質問	回答及び対応方針
新丸山ダム 建設事業	(資料15、2頁) 設楽ダムの目的には発電が無いが、今の社会状況を考慮すれば発電は重要なポイントだと思う。発電を行う可能性はないのか。	電気事業者から事業参画の意思表示は無かった。昨今の状況から、発電を行う可能性がゼロとは言えないと思う。
設楽ダム 建設事業	検証が終了するまで新たな段階に入らないことについて、事業評価監視委員会でそれが妥当かどうかを検討するのか。	ダム事業は、概算要求までに次年度の予算の手続きとして3年サイクルで再評価を受けなければいけない。検証中も、従前の要領に基づき再評価を行うこととなっている。
木曾川水系 連絡導水路 事業	(資料14、12頁) 洪水調節を行うには丸山ダムが最適と書いてあるが、どのような理由によるものか。	木曾川はダムが階段状になっており、どのダムを触っても周辺のダムに影響が及ぶことになるが、丸山ダムをかさ上げするのが一番良いということである。
	設楽ダムと木曾川水系導水路は本当に市民の水として必要だという説明であった。今後もその必要性はあるのか。	今回検証において、利水者にダム事業参画継続の意思を確認し、従来どおりということであった。
	検証作業はどのようなものか。	(参考資料、3頁) 検証は、「[オ] 検証対象ダム事業等の点検」で、総事業費や堆砂計画、工期、過去の工事実績など、計画の前提となっているデータ等について、まず点検を行う。その上で、「[カ] 目的別の検討」で、目的別ごとにダム案、ダムを含まない対策案を評価し、最終的には総合的な評価を行って、一つの案に絞り込んでいくということを検証するもの。
	1つの目的だけでなく、コベネフィット(相乗便益)によって2つの目的の両方を達成するというような検証は行っているのか。	検証の進め方は、既存の河川整備計画に位置付けられている目標を達成できるかを目的別に検討し、総合的な評価を行う。
<p>一般的意見)</p> <p>○温暖化対策は、二酸化炭素削減だけでは便益が出ないが、コベネフィット(相乗便益)を評価することにより進展した。予算が限られる中、合理化しながら目的を達成するためには、コベネフィットがどうかというところを評価しないといけないのではないかと思う。</p>		